

コロナ禍でのオンライン交流

(担当：子ども・若者部児童課)

事業の背景・目的

世田谷区では、5地域（世田谷・北沢・玉川・砧・烏山）に分かれて文化をベースにした子ども同士の交流事業(文化交流会)を実施しており、日頃の子どもたちの活動の成果を発表している。

今回、その1つである玉川地域の6つの児童館（等々力児童館・玉川台児童館・森の児童館・深沢児童館・上用賀児童館・新町児童館）では、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、例年通り各児童館の子どもたちが1つの場所に集い交流することを取り止め、代案としてオンラインでの交流を検討することとした。

目的

- (1) ICT 推進の一環で、子ども同士の交流をオンラインで実施する。
- (2) コロナ禍でも児童館としてできることを検討し、今後の運営手法の参考事例とする。
- (3) 児童健全育成を担う児童館が、子どもたちの主体的な活動をサポートし生きる力の基礎を培う

事業の概要

実施日時 令和3年2月27日(土)午後2時～3時

実施場所 玉川台児童館(世田谷区玉川台1-6-15)

実施内容 展示方式及び動画による各児童館活動内容紹介
ZOOMによる各児童館参加者同士のオンライン交流

職員体制 7名(会場従事の各児童館交流会担当職員)

12名(各児童館従事の職員)

事業実施方法 直営

事前準備

- ・初の試みであったので、児童館を管轄している児童課並びに ICT 推進課と協議調整。
- ・各児童館保有の PC での ZOOM テスト、通信環境、通信消耗品の確認。
- ・各児童館で展示会に出す作品作り、司会進行担当館での子どもとの打ち合わせ
- ・会場レイアウト検討 等

当日

- ・会場設営・作品展示
- ・生配信準備（モバイルパソコンの設置など）
- ・司会進行役自己紹介、各児童館作品紹介、動画紹介
- ・交流タイム～みんなで謎解き～

工夫点・留意点

(工夫点)

①各児童館の令和2年度の活動内容を展示形式および動画で紹介するほかに、オンライン上でも各児童館から参加してくれている子どもたちが交流でき、楽しめるプログラムとして、謎解きを行った。謎解きの問題については会全体の司会進行役を担った子どもたちが事前に考えたものを出題し、子どもたちが主体的に参加できる機会とした。

②地域の方で、映像通信分野に長けている方がおり、その方にもオンライン上で映像を映すときの注意点や映像の見せ方などを事前に相談、ご指導いただいた。会当日も会場に来ていただき、映像トラブルなど不測の事態が起きた際にすぐに対応できるよう、地域の方の協力も得ながら取り組んだ。

事業の効果

新型コロナウイルス感染症の影響により、児童館同士の交流事業のあり方が検討されているなか、子どもたちの交流の場の確保のため、また子どもたちの主体性を発揮する場の確保のため、初の試みとしてオンラインによる交流会を行った。直接会って顔と顔を合わせて交流できることが一番望ましいが、今回の交流会に参加してくれた子どもたちの様子からも、オンライン上でも楽しく交流できることが確認できた。コロナ禍でも児童館としてできることとして、今後の運営手法の参考事例になった。

課題・今後の展開

(課題)

①事前に生配信のテストを行い、各館の音声、映像状況を確認したうえで当日を迎えたが館によって通信環境が異なり、音声途切れ途切れになってしまった館もあった。生配信で使用する媒体も、タブレット、ノートパソコン、デスクトップパソコンと館によって異なっていたため、どの媒体が、一番通信がより安定するかなども事前に確認する必要がある。

②参加児童の保護者にも生配信を観てもらおうにあたり、保護者あて手紙で当日使用するミーティングIDやパスワードを周知していたが、その管理方法が適切であったか再度検討が必要である。

(今後の展開)

感染症対策をふまえ活動制限がある状況下でオンラインという新たな交流方法を発見できたことはよかった。そのなかで、今回挙がった課題点を整理して今後の世田谷区玉川地域6児童館の交流事業につなげていきたい。

(生配信の様子)



(各児童館作品展示物)



